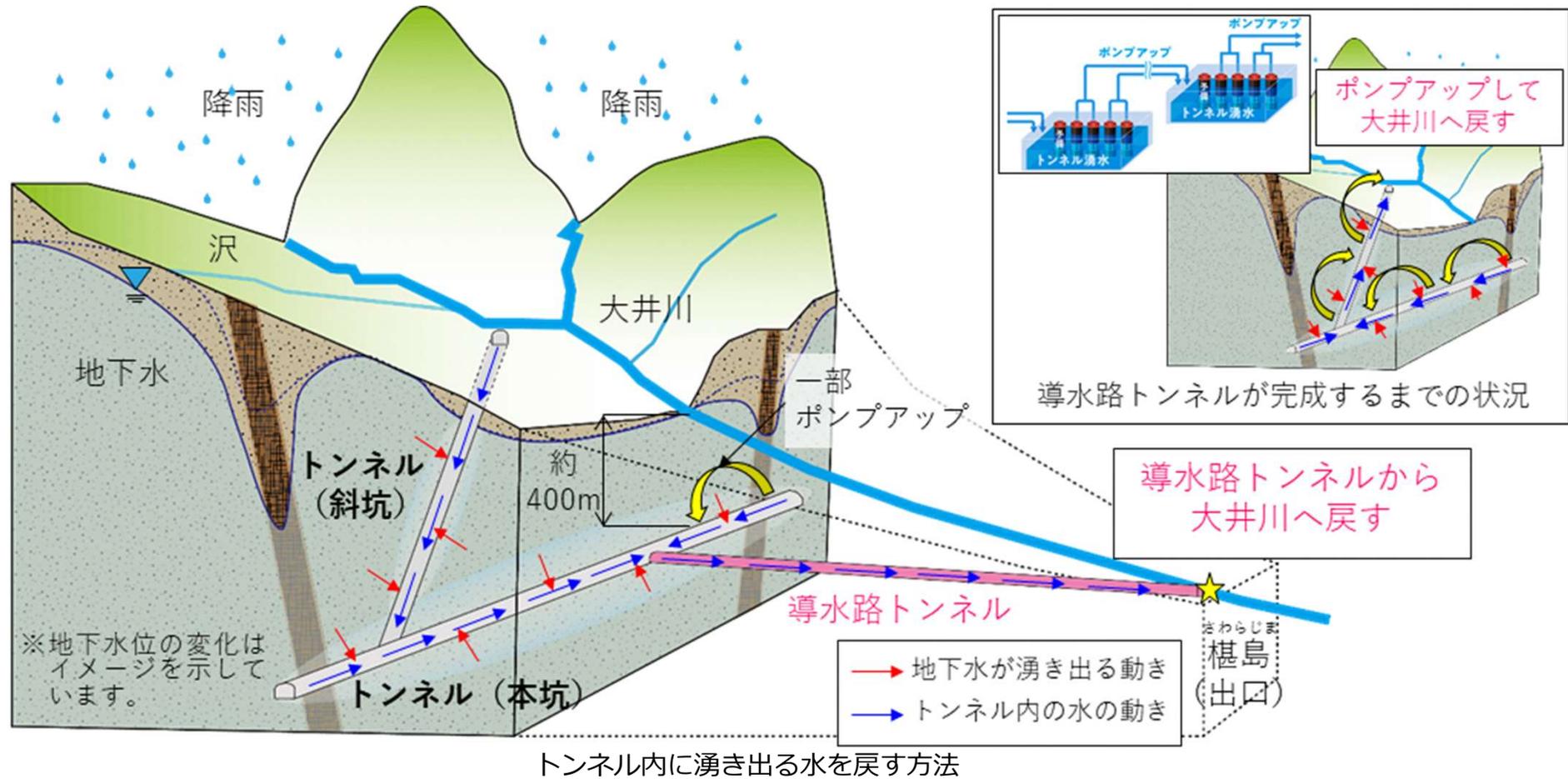


- 静岡工区では、まずはボーリング調査等により地質等の状況を事前に把握し、必要に応じて薬液注入を実施することなどにより、トンネル内の湧き水の量を低減
- トンネル内の湧き水については、「導水路トンネル」を建設し、勾配に沿った自然流下と、ポンプ等の揚水設備を使ったポンプアップにより、全て大井川に戻すことを原則として実施



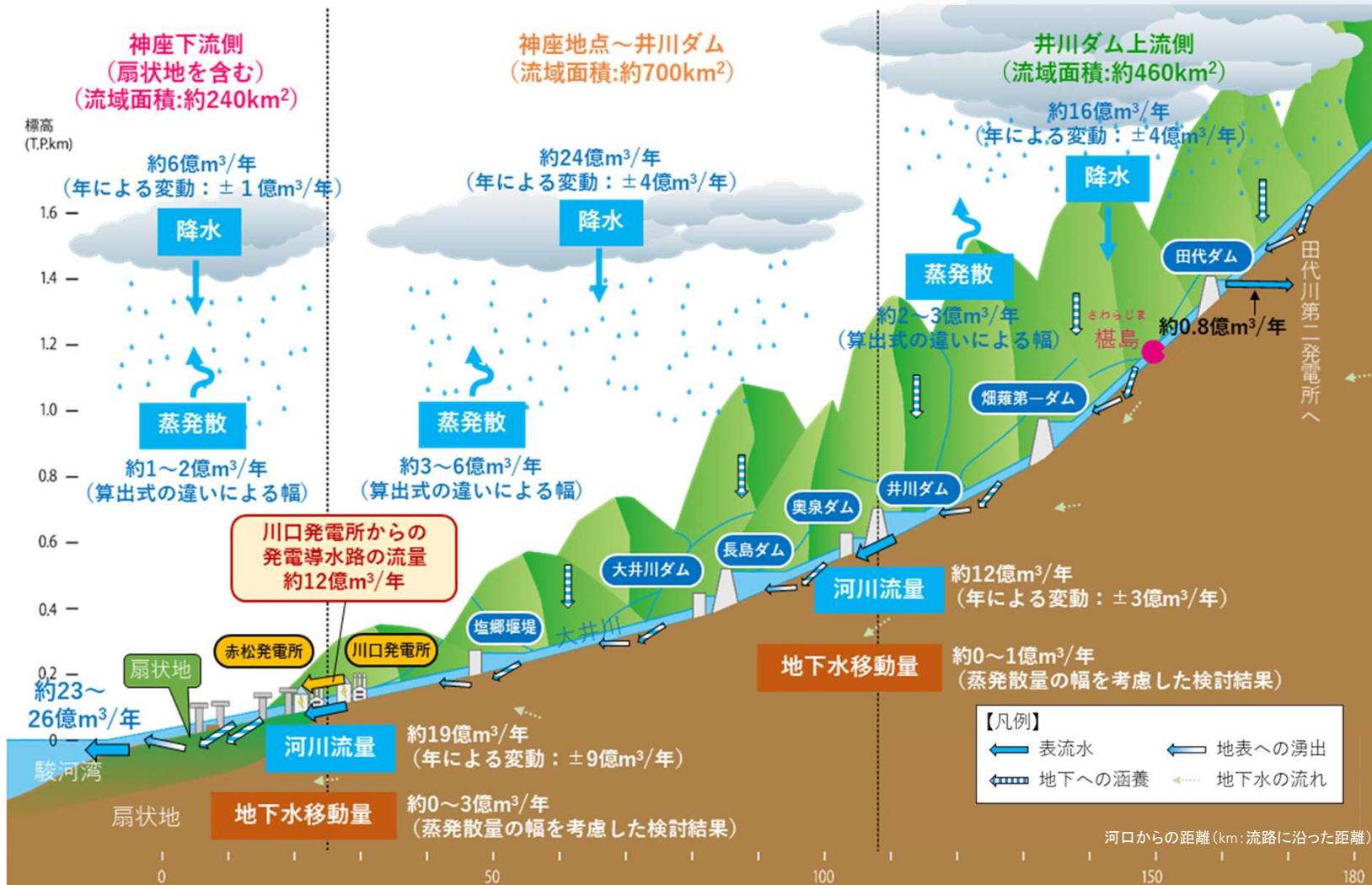
- 地下水がトンネル内の湧き水として大井川へ戻される（県境付近の一部工事期間を除く：3頁参照）ため、中下流域の河川流量は維持される

# 大井川の水資源への影響について

○降雨量や河川流量データや地下水の化学的な成分分析等を実施

⇒下流部の地下水は、中下流域からの河川の水と、下流域における降水が主な供給源

⇒導水路トンネルなどによって大井川の中下流域の河川流量が維持されるため、トンネル掘削による地下水量への影響は、河川流量の季節変動や年毎の変動と比べて極めて小さい



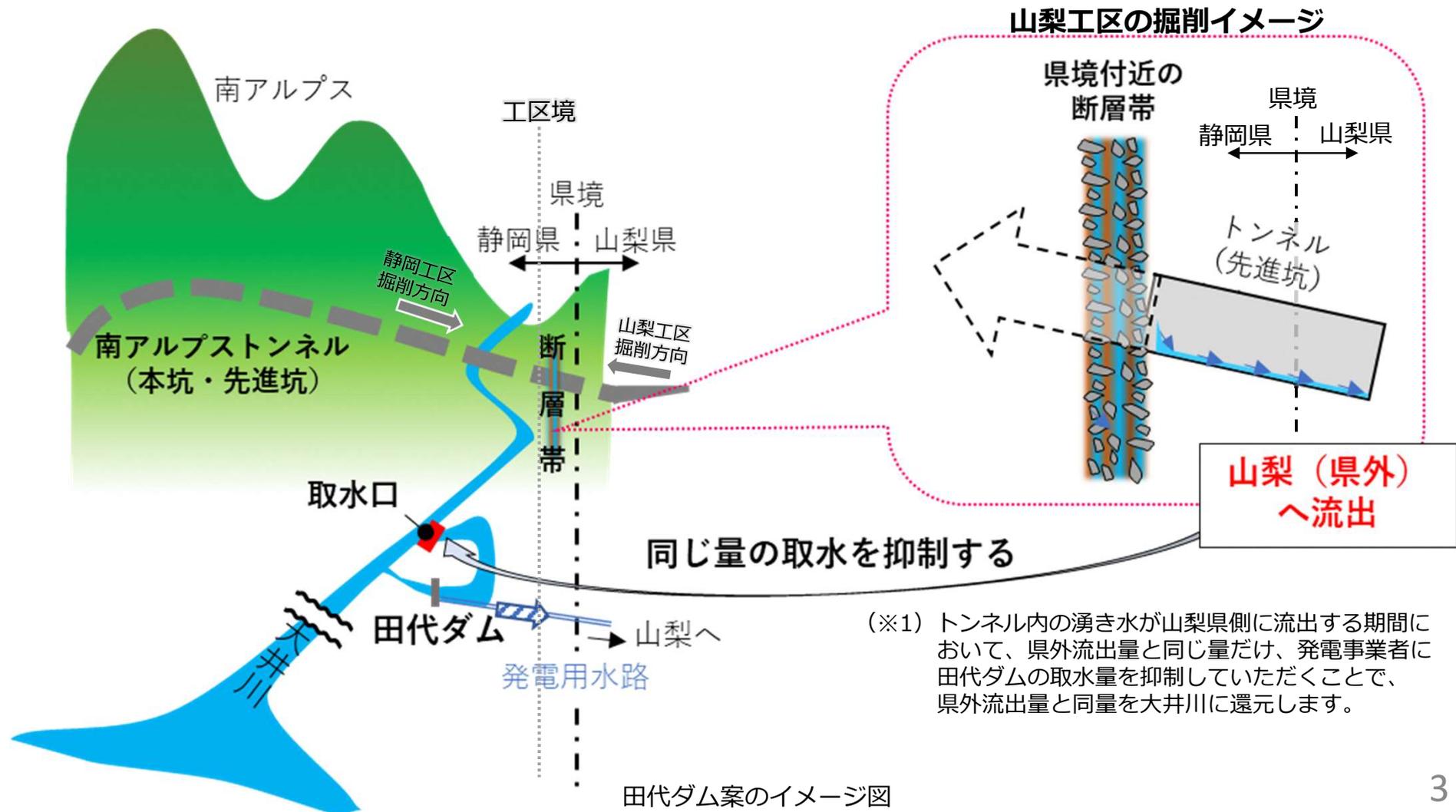
大井川流域の水循環の概要図

## 工事の一定期間、山梨県側に流出するトンネル湧水への対応

- 「中下流域の河川流量は維持される」という解析結果には不確実性が伴うため、大井川流域で水資源をご利用になる皆様によりご安心いただくため、県境付近の工事期間中の対策として、山梨県側に流出するトンネル内の湧き水の量と同量を大井川に戻す「田代ダム案<sup>(※1)</sup>」をとりまとめ

※運用サイクルやオペレーション、不測の事態への対応等について専門部会で合意

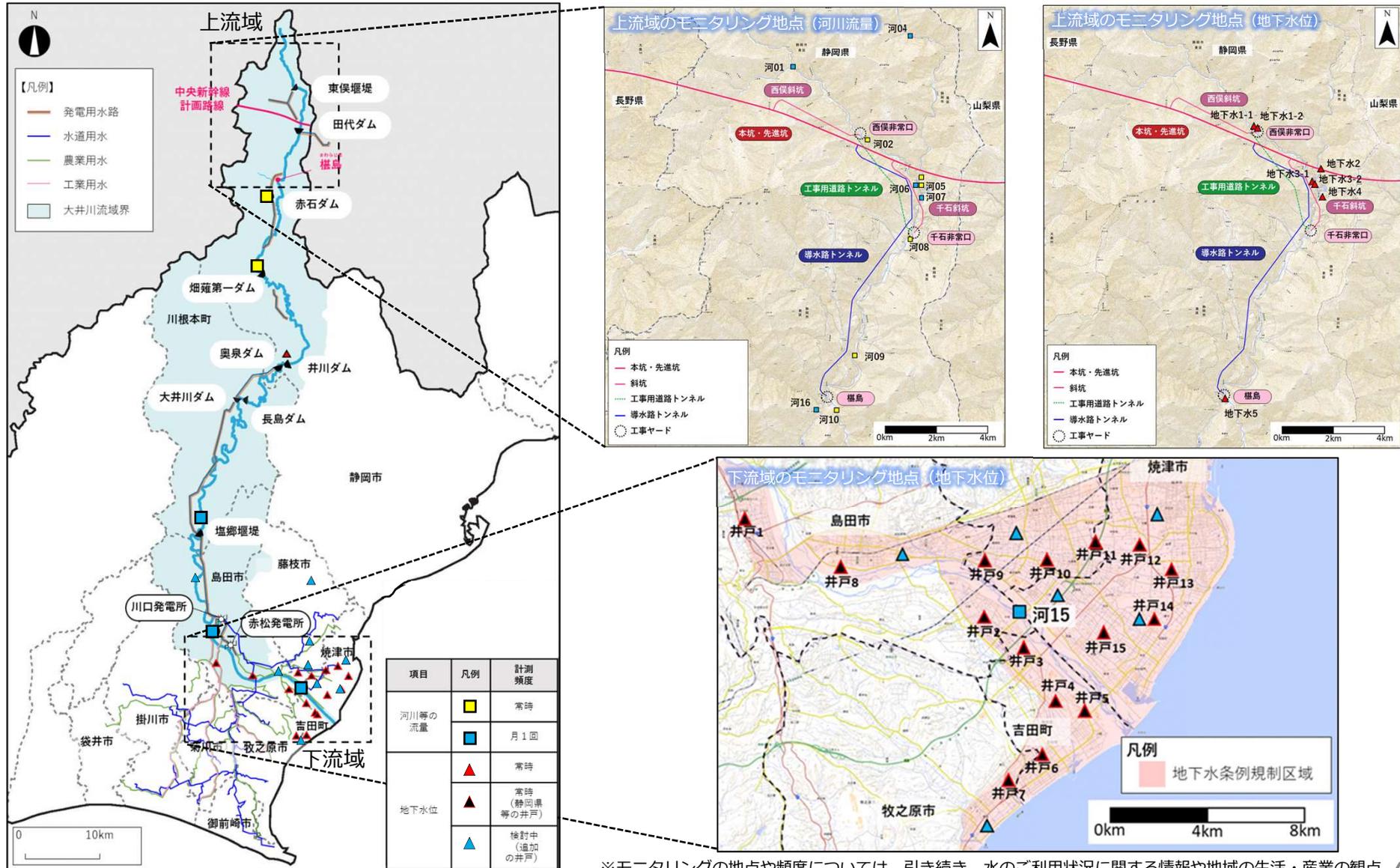
※山梨県内のボーリング等による健全な水循環への影響の懸念に対する対応について専門部会で合意



# リスク管理、モニタリング計画

- トンネル掘削にあたり、突発湧水等の不測の事態が生じる可能性があるため、掘削等に伴うリスク管理の方法を定めるとともに、工事前、工事中、工事完了後も継続的なモニタリングを実施

※リスク管理の方法、モニタリング計画について専門部会で合意



主なモニタリング地点

※モニタリングの地点や頻度については、引き続き、水のご利用状況に関する情報や地域の生活・産業の観点から、大井川流域市町や利水者の方々のご意見をお聞きしながら、追加・変更するなど柔軟に対応します。

## 大井川流域8市2町における大井川の水を守るための取組みに関する説明会

- 3月7日から4月26日にかけて大井川流域8市2町において大井川の水を守るための取組みに関するオープンハウス型の説明会を計20回実施し、計700名以上の地域の方々にご来場いただきました。
- ご来場いただいた方からは、トンネル湧水を大井川に戻すための導水路トンネルの計画やポンプアップの方法のほか、工事前・工事中・工事完了後のモニタリングの方法、また、山梨県内でのボーリング調査の結果等、様々なご質問をいただきました。



**大井川の水資源に関する当社の取組み等について理解を深めていただけるよう、今回の説明会でいただいた意見等を、今後の取組みに活かしてまいります。**